

40歳からの 「名刺をすてられる」 生き方

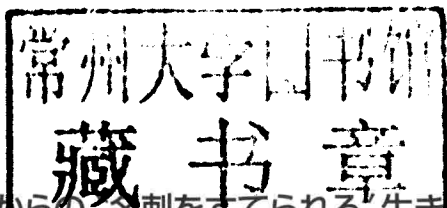
疲れた職場で生き残る
8つの法則

田中靖浩
公認会計士

EXIT



講談社+ α 新書
プラスアルファ



40歳からの、多刺をすてられる、生き方
疲れた職場で生き残る8つの法則

田中靖浩

1963年、三重県生まれ。産業技術大学院大学客員教授。外資系コンサルティング会社を経て、田中公認会計士事務所を独立開業。会計、経営コンサルティング、セミナー講師、書籍執筆、新聞、雑誌での活動のほか、落語家や講師とのコラボ・イベントを開催するなど、公認会計士の枠に収まらない幅広い活動を展開中。著書に『経営がみえる会計(第3版)』『数字は見るな! 3つの図形でわかる決算書超入門』(以上、日本経済新聞出版社)ほか多数。

講談社+α新書 594-1 C



40歳からの“名刺をすてられる”生き方

疲れた職場で生き残る8つの法則

田中靖浩 ©Yasuhiro Tanaka 2012

2012年7月20日第1刷発行

発行者——— 鈴木 哲

発行所——— 株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001

電話 出版部(03)5395-3532

販売部(03)5395-5817

業務部(03)5395-3615

装画——— ©Richard Morrell/Corbis/amanaimages

デザイン——— 鈴木成一デザイン室

カバー印刷——— 共同印刷株式会社

印刷——— 慶昌堂印刷株式会社

製本——— 株式会社若林製本工場

本文図版——— 朝日メディアインターナショナル株式会社

定価はカバーに表示してあります。

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。

送料は小社負担にてお取り替えます。

なお、この本の内容についてのお問い合わせは生活文化第三出版部あてにお願いいたします。

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することはたとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。

Printed in Japan

ISBN978-4-06-272768-6

目次 ● 40歳からの、名刺をすてられる、生き方

プロローグ 「火宅の人」な日本人へ 3

第一章 ゆでガエル化してきた日本の職場

日本の職場は疲れている 18

よその会社が気になる経営者たち 20

職場の人気者が危ない！ 21

幸福な黒字と不幸な黒字 24

ゆでガエル現象が始まった！ 25

優秀で頑張る人がソッソクする現象 27

第二章 新・もはや戦後ではない

給料をめぐる2つの常識の終わり 32

日本の職場を変えた大きな断層 34

「9・4・1」の法則 38

ゲーセンにたむろする高齢者たち 42

異常が正常になる世の中へ 45

日本の成功の終焉 48

第三章 日本には、老人の心構えが足りない

大企業勤めが幸せだった頃 52

会社の規模には不可逆性がある 61

経費とコスト削減の理論 54

正しく衰える心構えを 63

定期昇給は当たり前？ 57

会社と共倒れにならない生き方 65

ステップローン世代の憂鬱 58

第四章 不況の1%職場に、ダチヨウオヤジ現る！

リストラするのは悪いこと？ 68

安すぎるマンションの教え 77

複雑かつ巧妙な人件費削減策 70

ダチヨウ・シンドローム 79

「手を抜かせない職場」の誕生 72

あなたの特技はなんですか？ 80

危機察知できないサラリーマン 75

第五章 リスクを取らないダチヨウ上司

デキる女性が結婚しにくい理由 86

「いい男」は会社にいない？ 86

逃げる・威張る・群れるダチヨウ 89

上下関係が複雑化する最近の会社 92

逃げる上司が抱える2つの含み損 94

飛べないダチヨウ上司 97

スペックダウンできない男たち 99

第六章 生き残るために／会社と自分の「距離」を考える

「合格確率5%未満」への挑戦 104

過去の数字で失敗自慢する上司 107

「リスク」こそ勇気の証！ 108

名曲「竹田の子守唄」放送禁止！ 110

コンプライアンスの誤解 111

アームズ・レングスって何？ 113

余裕のない会社に依存する危険 114

支配・従属関係から対等な関係へ 117

サラリーマン、ソロ活動のススメ 119

第七章

生き残るために／積極的手抜き「見」のススメ

効率をアップしてからどうする？

124

もつともつと効率化を！の悲劇

127

気遣いも「エコモード」へ

130

「手を抜く」と「見」の違い

133

「勝負しすぎ」が負けを招く

136

もつたいたいが一番もつたいたい

138

社会への過剰適応が心を壊す

140

「金持ち」ならぬ「時間持ち」へ！

141

私が勝手に始めた「直訴運動」

143

第八章

生き残るために／あなたを救う「社外の縁」の作り方

名付けて知的コバンザメ作戦

148

二〇〇七年クレーマー問題

150

定年後のダチヨウがワシに進化

154

ハローワークに頼ったら負け

156

労働の「主人公」になる生き方

158

半自営業・半会社社員がいい理由

159

名刺ファーストな生き方をやめる

162

第九章 人に迷惑を掛けないだけでよしとする人生へ

長生きの質を考える 168

老年期の分だけ延びた寿命 171

私がガン保険を解約した理由 172

住宅ローンの心配は無用 174

カネと健康のどちらが大切？ 175

孤独死はカッコ悪くない 178

遺産は傲慢。「生前お詫び」を！ 181

財産より、子どもに遺したいもの 184

あとがき 187

40歳からの“名刺をすてられる”生き方

疲れた職場で生き残る8つの法則

プロローグ 「火宅の人」な日本人へ

檀一雄作『火宅の人』は、愛人との生活にのめり込む主人公を描いた有名小説です。

この小説の影響なのでしょうか、「火宅」のことを「めちやくちゃになった家庭」と思っている人が多いようですが、実はそうではありません。

火宅の人は、もともと法華經の説話に登場する「火事が迫っているのにそれを知らずにいる子どもたち」のことです。

火の手がすぐ近くまで迫ってきており、このままだと屋敷が丸焼けになって全員死んでしまう。いますぐ逃げるべきなのに、気が付かず無邪気に遊んでいる子どもたち。

—— 迫り来る炎と、死に気付いていない「無知」が恐ろしさの本質です。

決して人ごととは思わないでください。

長い平和が続いたせい、多くの日本人が次のように考えています。

まさか、自分の勤める会社が潰れることはないだろう。

まさか、自分が離婚されることはないだろう。

まさか、老後に年金がもらえないことはないだろう。

まさか、病気になつて治療が受けられないことはないだろう。

そんな私たちこそ、本来の意味における「火宅の人」なのかもしれません。

これから日本を襲う火事……それは景気の悪化です。景気が悪くなると、国でも会社でもカネが回らなくなります。もちろん個人にも回ってこなくなります。

国の年金・医療や企業の人事・給与の仕組みは「景気がよくなる」経済成長」を前提につくられており、「景気の悪い状況」は想定されていません。

カネが回らなくなったとき、日本中の会社や私たちの生活はどうなるのか？

——この本はそんなことを考えてもらうキツカケとして書きました。

だからといって「仕事のスキルを高めましょう」とスキルアップを勧めたり、「老後に備えて貯金しましょう」と倹約を勧める本ではありません。むしろこれからの時代は、スキルアップに励んだり、倹約しないほうが幸せになれるのではないかと提案しています。

どうしてそういう結論になるのか、それは本書の中身でおいおい理解していただくとして、本書では近未来「火宅の日本」の予想図について「職場の風景」を中心に描きました。

なぜ職場を中心にしたかといえば、そこがわれわれにとって「最も重要な場所」であり、かつこれから「最も変化する場所」だからです。

現在、働いている人の約80%がサラリーマンです。ここでいうサラリーマンは「給料をもらっ

ている人々」のことで、公務員や教員も含まれると考えてください。サラリーマンはとても長い時間を職場で過ごします。そこでは時間だけでなく服装や態度、行動の多くが規制されます。だから職場の雰囲気はそこで働く人々にとっても大きな影響があります。

その影響は、本人たちだけに止まりません。勤務時間が長く過酷になればお父さんの帰宅は遅くなり、疲れたお父さんは奥さんや子どもなど家族全員に不機嫌をまき散らします。

すでに日本の職場はここ数年で大きく変わっています。

一言で表現すれば、だんだん余裕がなくなってきました。

みんなピリピリしてギスギスして、しかめっ面。

その変化の理由は単純にして明解、会社が儲からなくなってきたからです。

儲かっている会社には余裕があります。すこしくらいサボっても平気だし、多少のミスも大目に見るし、のんびり働いても大丈夫。職場に笑顔があります。

でも儲からなくなると会社から笑顔が消えていきます。みんなが忙しくなって思いやりがなくなり、コスト削減・給料削減で気分が暗くなり、男性は飲み過ぎで肝臓を悪くし、女性はストレスで肌荒れになります。

このような職場環境の悪化は、いまに始まったことはありません。バブルが崩壊したとされ

る一九九〇年代初頭から静かにじわじわと進行してきました。

決して二〇一一年東日本大震災のせいではなく、また二〇〇八年リーマン・ショックのせいでもありません。長い時間のうねりとして少しずつ景気の悪化が起こっているのです。

本書では、これまでまったく経済や経営を学んだことがない人にもわかるよう、景気の悪化についてその事実や原因、そして対応の方法を説明しようと試みました。

ここから先の10年から15年、日本の職場がどうなっていくのか――。

これは本書で読者の皆さんと一緒に考えていくテーマですが、私はこれから日本の職場環境はますます悪くなっていくと思っています。つまり先行きに対して悲観的な立場です。

これはもちろん「外れたほうがいい予想」です。私だって日本の職場の雰囲気が悪くなるのを望んでいません。自分と家族のため、そしてすべての日本人のために平和で安心な社会・職場が続くことを祈っています。

ただ、そのような希望や願望を除いて冷静かつ客観的に判断すると、これから職場環境の悪化は避けられない気がするのです。過労やストレスによる体調不良は激増するでしょうし、うつ病などのメンタル・ヘルス問題も一層増えると思います。

私が予想する「悪いシナリオ」が当たるにせよ外れるにせよ、読者には「火宅の人」にならぬ

ような心の準備をしておくことをお勧めしたいのです。

未来に対して明るくあれと「希望」をもつことと、未来の不幸に備える「覚悟」をもつことは両立します。いや、両立させるべきです。

突然の不幸に見舞われたとき、「想定外」だと慌てたり、「政治が悪い・会社が悪い」と人のせいにしないですむよう覚悟を決めておくと同時に準備をすること。

もしその準備が外れたときは「嬉しい誤算」と喜べばいいだけです。

東日本大震災によつて原発トラブルや液状化現象などが起こりました。

その心理的影響から、首都圏でも大地震に対する備えをしようとする人たちが増えました。もちろんそれはいいことです。

しかし大地震にもまして、不況による職場環境の悪化は「間違いなくやってくる」という意味できちんとした備えが必要なのです。

私は会計士という仕事柄、長い間、たくさんの会社を見てきました。

そのなかでひとつ気が付いたことがあります。それはマスコミなどで「あの会社はスゴイ!」と持ち上げられる会社が、時代とともにコロコロ変わるという事実です。

八〇年代バブル景気の頃、ダイエーが「スゴイ経営だ!」と褒められました。積極的な展開を行うダイエーは「街づくりまで展開する魅力的な流通会社」として賞賛の的だったのです。が、

九〇年代の不況になると一転して、賃貸で堅実に経営するイトーヨーカドーが「持たざる経営」として脚光を浴びます。——こんなふうに、時代や景気が変われば、望ましい経営のカタチも変わっていきます。

要は、「時代に合った経営ができているか」がポイントなんですね。経済が上向きであればダイエー型の積極経営がふさわしく、反対のときはヨーカドー型の堅実経営が望ましい。

ここで私たちも自らに問いかけてみましょう。

「自分は時代に合った生き方をしているか？」

本書のタイトルである「名刺をすてられる生き方」とは、会社に依存しすぎない生き方のことです。これまでの日本では会社に従属し、寄りかかって生きるほうが金銭的・精神的に安定していました。しかし、今や時代が違います。

会社と適度な距離感を持つて「独立・共存」的な関係を築いたほうが、むしろ快適な人生をすごせるようです。会社ベッタリの自分を見直しつつ、名刺や肩書がなくても社外の人と付き合える自分を目指すこと。そんな生き方はこの国ではまだまだマイナーですが、時代は少しずつ動き始めています。

会社・国・旦那といった「大きな存在に依存しすぎる」生き方はかなり経済的危険度が高くなっているのです。